

◆特定共同研究(A)(研究期間：令和4年4月1日～令和5年3月31日)

(災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画等のプロジェクトへの、全国の研究者の参加支援)

No.	課題番号	付表の 番号	研究 代表者名	代表者名	所属機関	担当教員	研究課題	報告書
1	2022-A-01 (KGSM01)		八木原 寛	-	鹿児島大学 南西島弧地震 火山観測所	企画部	南西諸島北部域におけるプレート 間すべりの特性に関する地震・地 殻変動観測研究	報告書
2	2022-A-01 (ERI_12)		蔵下 英司	-	東京大学 地 震研究所	企画部	スロー地震モニタリングに基づく 南海トラフ域の地震発生可能性評 価手法に関する研究	報告書
3	2022-A-02		田中 聡	-	海洋研究開発 機構	清水 久芳	地球深部の構造とダイナミクス	報告書
4	2022-A-03	A	平田 直	椎名 高裕	産業技術総合 研究所	長尾 大道	次世代地震計測と最先端ベイズ統 計学との融合によるインテリジェ ント地震波動解析：サブ課題(A) 多種多様な地震計測データ利用方 法とその検証	報告書
5	2022-A-03	B	平田 直	森川 耕輔	大阪大学・大 学院基礎工学 研究科	長尾 大道	次世代地震計測と最先端ベイズ統 計学との融合によるインテリジェ ント地震波動解析：サブ課題(B) 最先端ベイズ統計学に基づく地震 波動解析アルゴリズムの構築	報告書
6	2022-A-03	C	平田 直	加納 将行	東北大学・大 学院理学研究 科	長尾 大道	次世代地震計測と最先端ベイズ統 計学との融合によるインテリジェ ント地震波動解析：サブ課題(C)イ ンテリジェント地震波動解析：実 データ応用実験とデータ同化法開 発	報告書

※現在の所属機関とは異なる可能性があります。

◆特定共同研究(B)(研究期間：令和4年4月1日～令和5年3月31日)

(全国的な規模のグループが実施する、地震予知・噴火予知計画等の事業費に基づかないプロジェクトで将来事業化を目指す計画)

No.	課題番号	新規 継続 最終 年度	代表者名	所属機関	担当教員	研究課題	報告書
1	2020-B-03	最終 年度	太田 雄策	東北大学・大学 院理学研究科	青木 陽介	超稠密GNSS観測による地殻変動研 究の新展開	報告書
2	2020-B-06	最終 年度	井上 邦雄	東北大学・ ニュートリノ科 学研究センター	田中 宏幸	マントル地球ニュートリノ検出を 目指した海洋底ニュートリノ検出 器による地球深部理解	報告書
3	2020-B-07	最終 年度	芝崎 文一郎	建築研究所	岩森 光	プレートの沈み込みと島弧変動の ダイナミクス	報告書
4	2021-B-01	継続	上木 賢太	海洋研究開発機 構	長尾 大道	機械学習で推し進めるデータ駆動 型地球科学の新展開	報告書
5	2021-B-02	継続	山田 昌樹	信州大学・理学 部	佐竹 健治	地質記録と数値シミュレーション に基づく南海トラフ～琉球海溝の 長期間の津波発生履歴と巨大地震 破壊域の解明	報告書
6	2021-B-03	継続	奥山 哲	気象庁・気象研 究所	青木 陽介	高頻度SAR観測による地殻・地表 変動研究	報告書
7	2022-B-02	新規	三宅 弘恵	東京大学・地震 研究所	三宅 弘恵	地震災害研究の国際加速化	報告書
8	2022-B-03	新規	長谷川 健	茨城大学・理学 部	市原 美恵	大陸プレートにおけるマントルプ ルームの進化とダイナミクス	報告書
9	2022-B-04	新規	風間 卓仁	京都大学・大学 院理学研究科	今西 祐一	重力観測の高度化に基づく固体地 球ダイナミクス研究の新展開	報告書

No.	課題番号	新規 継続 最終 年度	代表者名	所属機関	担当教員	研究課題	報告書
10	2022-B-06	新規	宮武 勇登	大阪大学・サイバーメディアセンター	伊藤 伸一	深層学習とデータ同化の協働による固体地球科学の深化	報告書
11	2022-B-07	新規	大邑 潤三	東京大学・地震研究所	大邑 潤三	地震史料テキストデータの多角的な活用による歴史災害研究の深化	報告書
12	2022-B-08	新規	山本 真行	高知工科大学・システム工学群	今西 祐一	インフラサウンド観測網と地震観測データを用いた地域災害の規模把握に向けた標準化の議論および基礎システムの開発	報告書

※現在の所属機関とは異なる可能性があります。

◆**特定共同研究(C)**(研究期間：令和4年4月1日～令和5年3月31日)

(地震研究所が特別に認めた、共同利用経費以外の資金によって運営される共同研究プロジェクト)

No.	課題番号	代表者名	所属機関	担当教員	研究課題	報告書
1	2022-C-01	木村 尚紀	防災科学技術 研究所	酒井 慎一	首都圏地震観測網 (MeSO-net) を使った地震活動・プレート構造の研究	報告書

※現在の所属機関とは異なる可能性があります。

◆一般共同研究(研究期間：令和4年4月1日～令和5年3月31日)

(所内外の研究者からなる少人数のグループで協力して進める共同研究)

No.	課題番号	代表者名	所属機関	担当教員	研究課題	報告書
1	2022-G-01	飯塚 毅	東京大学・大学院理学系研究科	竹内 希	地球科学の先端的成果を取り入れた物理学の地殻化学組成分布モデルの推定	報告書
2	2022-G-02	鈴木 岳人	青山学院大学・理工学部	亀 伸樹	BKモデルと熱・流体圧・空隙生成相互作用及び空隙のhealingに基づくゆっくり地震から高速地震への遷移時刻の解析的・数值的推定	報告書
3	2022-G-04	石須 慶一	東京工業大学・理学院	上嶋 誠	水蒸気噴火発生の危険性がある地下発見のためのドローン空中電磁探査法開発	報告書
4	2022-G-05	鬼澤 真也	気象庁・気象研究所	今西 祐一 西山 竜一	伊豆大島火山マグマ活動の解明に向けた精密重力観測	報告書
5	2022-G-06	風早竜之介	産業技術総合研究所	大湊 隆雄	衛星リモートセンシング技術を用いた火山噴煙の研究	※研究途中 取りやめにより 報告書なし
6	2022-G-07	吉澤 和範	北海道大学・大学院理学研究院	西田 究	日本列島下の地殻・上部マントル3次元S波速度モデルの構築	報告書

※現在の所属機関とは異なる可能性があります。

◆研究集会(研究期間：令和4年4月1日～令和5年3月31日)

(全国の研究者が地震・火山関連分野のテーマについて集中的に討議する研究会)

No.	課題番号	代表者名	所属機関	担当教員	研究集会名	報告書
1	2022-W-01	林 昌奎	東京大学・生産技術研究所	篠原 雅尚	2023 IEEE Underwater Technology (UT23)	報告書
2	2022-W-02	田中 愛幸	東京大学・大学院理学系研究科	小原 一成	スロー地震から高速破壊まで全地震現象の包括的理解を目指して	報告書
3	2022-W-03	奥脇 亮	筑波大学・生命環境系	武村 俊介	震源インバージョンワークショップ～地震発生物理の包括的理解に向けた手法開発とその実践～	報告書
4	2022-W-04	山田 昌樹	信州大学・理学部	佐竹 健治	2022年度津波堆積物研究会	報告書
5	2022-W-05	江本 賢太郎	東北大学・大学院理学研究科	古村 孝志	陸海両域での超高密度観測時代の観測・解析手法と地震波伝播理論の新展開	報告書
6	2022-W-06	溜淵 功史	気象庁・気象研究所	鶴岡 弘	地震動をはじめとする地球科学データの即時解析・即時予測・情報利活用	報告書
7	2022-W-07	麻生 尚文	東京工業大学・理学院	大谷 真紀子	数値実験とデータ解析から探る地震活動の物理	報告書
8	2022-W-08	奥山 哲	気象庁・気象研究所	青木 陽介	高頻度SAR観測時代の幕開け	報告書
9	2022-W-09	室谷 智子	国立科学博物館・理工学研究部	加納 靖之	関東地震の観測記録・歴史資料・発生履歴に関連する総合研究集会	報告書

※現在の所属機関とは異なる可能性があります。

◆地震・火山噴火の解明と予測に関する研究(研究期間：令和4年4月1日～令和5年3月31日)

(災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画のうち、「1.地震・火山現象の解明のための研究」、「2.地震・火山噴火の予測のための研究」に関連する新規研究課題)

No.	課題番号	継続/ 新規	代表者名	所属機関	研究課題	報告書
1	2021-KOBO19	継続	中東 和夫	東京海洋大学・学術研究院	東京海洋大学練習船での海底地殻変動観測	報告書
2	2021-KOBO21	継続	佐野 恭平	兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科	石基組織から読み解く北海道摩周火山の噴火推移過程	報告書
3	2020-KOBO17	継続	佐柳 敬造	東海大学・海洋研究所	富士山頂における全磁力通年観測	報告書
4	2021-KOBO22	継続	知北 和久	北海道大学大学院理学研究院	活火山火口湖の水・熱・化学物質収支の長期評価と火山活動変動との関係について：蔵王山と御釜	報告書
5	2021-KOBO23	継続	望月 伸竜	熊本大学大学院先端科学研究部	阿蘇中岳火山灰の岩石磁気的性質の時系列変化に関する研究	報告書
6	2021-KOBO25	継続	横田 裕輔	東京大学・生産技術研究所	GNSS-A海底測地観測データの高精度化に向けた精度評価システムの構築	報告書
7	2020-KOBO08	継続	織原 義明	東京学芸大学・教育学部	行政等が所有する宏観異常現象に関わるデータを用いた地震発生の確率予測	報告書
8	2022-KOBO26	新規	児玉 哲哉	宇宙航空研究開発機構 研究開発部門 第一研究ユニット	地震先行VLF帯電磁波強度減少研究のための超小型衛星： Preludeのフライトモデル製作	報告書
9	2022-KOBO27	新規	大場 武	東海大学理学部	水蒸気噴火を起こす火山の活動把握：火山ガス・火口湖水・温泉水等の化学分析に基づく地球化学的アプローチ	報告書
10	2022-KOBO28	新規	伴 雅雄	山形大学理学部	火山活動推移における分岐の要因の解明：蔵王山、過去約800年間の噴出物の事例研究	報告書

※現在の所属機関とは異なる可能性があります。

◆高エネルギー素粒子地球物理学公募研究(研究期間：令和4年4月1日～令和5年3月31日)
 (高エネルギー素粒子地球物理学に関連する技術開発研究課題)

No.	課題番号	代表者名	所属機関	継続/ 新規	担当教員	研究課題	報告書
1	2020-H-05	Dezső Varga	High Energy Physics Dept., Wigner Research Centre for Physics	継続	田中 宏幸	Muography imaging instrumentation for applications in geophysics and human infrastructure	報告書
2	2020-H-01	Domenico Lo Presti	Department of Physics and Astronomy "Ettore Majorana"- University of Catania-Italy	継続	田中 宏幸	Joint measurement of the internal structure of Sakurajima volcano by means of muography.	報告書
3	2021-H-01	Marko Holma	Muon Solutions Oy, Finland	継続	田中 宏幸	Muon telescope and geoscience applications for muography; testing and R&D in a deep underground mine in Pyhäsalmi, Finland	報告書
4	2022-H-01	松島 潤	東京大学大学院新領域創成科学研究科	新規	田中 宏幸	室内実験スケールでのミュオンと弾性波の融合測定 (Combined measurement of muons and elastic waves on a laboratory scale)	報告書
5	2022-H-02	金 政浩	九州大学大学院総合理工学研究院	新規	田中 宏幸	磁場ミュオグラフィ技術の開発	報告書

※現在の所属機関とは異なる可能性があります。

◆大型計算機共同利用公募研究(研究期間：令和4年4月1日～令和5年3月31日)
(地震・火山・防災の関連分野の研究遂行に関わる大規模計算を行う研究課題)

No.	課題番号	代表者名	所属機関	種別	担当教員	研究課題	報告書
1	2022-S-A101	江本 賢太郎	東北大学大学院理学研究科	A超大型研究	武村俊介	大規模地震動シミュレーションを活用した地震発生帯の構造解明と強震即時予測	報告書
2	2022-S-B101	馬場 俊孝	徳島大学・大学院社会産業理工学研究部	B大型研究	佐竹 健治	複合災害を考慮した確率論的津波浸水評価	報告書
3	2022-S-B102	竹中 博士	岡山大学 学術研究院自然科学学域	B大型研究	古村 孝志	大規模地震動シミュレーションに基づく南西諸島域の高精度震源解析	報告書
4	2022-S-C101	岩田貴樹	県立広島大学・大学教育実践センター	C挑戦的研究	-	P波初動を用いた応力空間パターン推定手法の高度化	報告書
5	2022-S-C102	岩田貴樹	県立広島大学・大学教育実践センター	C挑戦的研究	-	P波初動を用いた応力空間パターン推定手法の高度化	
6	2022-S-C103	綿田辰吾	東京大学・地震研究所	C挑戦的研究	-	重力項と重力摂動項を含む地震・津波計算コードの開発	報告書
7	2022-S-C104	鈴木雄治郎	東京大学・地震研究所	C挑戦的研究	-	火山噴煙ダイナミクスの大規模並列化数値モデルの開発研究	報告書
8	2022-S-C105	武多昭道	東京大学・地震研究所	C挑戦的研究	-	二次宇宙線生成シミュレーション	報告書
9	2022-S-B201	浅井 光輝	九州大学・工学研究院社会基盤部門	B大型研究	市村強	固相から液相への相変化型粒子法による高並列GPU環境下での地震時斜面崩壊被害予測	報告書

※現在の所属機関とは異なる可能性があります。